

教職員による自己評価と児童アンケートの結果

11月下旬に、教職員に学校教育目標に関する下記7項目についての自己評価を行いました。同時期に、児童にも同様の内容を含むアンケート調査を行いました。どちらも4段階評価で行いました。なお、1・2年生のアンケート項目の内容は、3～6年の内容より易しい表現を用いております。また、児童のアンケートは、昨年度に引き続き、4つの誓いについても調査を行っております。(昨年度は3～6年のみの実施)

総じて、自分のことを肯定的に捉えている子や、もっと成長したいと感じている子が多いことがこのアンケートを通してわかりました。一方で、不安や不満を感じている子が5～10%いることにも目を向け、その声にさらに耳を傾ける必要があると感じています。学校教育目標のとらえや重点等を全職員で再確認しながら、来年度のカリキュラムの具体化に努めてまいります。

学校教育目標	項目	内容	教職員の自己評価	児童アンケート
『太陽の子』本質を見極める	1	よりよい自分に成長していると感じて、毎日楽しく学校に来ているか。		
	2	授業やくらしの中で、友だちと考えを伝え合いながら進んで問題解決に取り組んでいるか。		
	3	問題解決から学んだことをしっかりと振り返り、次の授業やくらしに生かしているか。		
『北国の子』強い意志をもつ	4	自分にはよいところがあると信じて努力しているか。		
	5	目標を持って難しいことでも挑戦しているか。		

『日本の子』高い価値をめざす	6	我が国日本や郷土山形の自然や伝統と文化、施設やそこで働く人について学んだことを、他の人に紹介したいと思っているか。		
	7	友だちと互いに信頼し合い、学び合っ友情を深め、助け合いながら、よりよい学級・学年・学校をつくらうとしているか。		

	項目	内容	H30 年度児童アンケート(3~6年)	R1 アンケート(全学年)
4つの誓い	1	あなたは、さわやかで元気なあいさつをしていますか。		
	2	あなたは、話を目と耳と心で聴いていますか。		
	3	あなたは、小さな社会人として地域のお手本になっていますか。		
	4	あなたは、一日一善(係・当番・仕事活動)に一生懸命取り組んでいますか。		

教職員による自己評価の成果と課題をもとにまとめた各項目の考察

1 よりよい自分に成長していると感じて、毎日楽しく学校に来ているか。

欠席状況、保健室来室状況を昨年度と比較すると、病気欠席は1割減、けがによる来室は1割減、内科的な来室は3割減です。不定愁訴や頻ぱんに来室する児童も減っており、学校生活に充実感を感じている児童が多いのではないかと感じています。今後とも、周りの子や学級の雰囲気流されずによりよく生きようと頑張っている子を価値づけながら学級経営を固め、土台を安定させていきたいと思えます。そして、子どもたちがかわりの中で自分を価値づけられるような働きかけを考え、一人一人が納得感、所属感をもてるように努めていきたいと思えます。

2 授業やくらしの中で、友だちと考えを伝え合いながら進んで問題解決に取り組んでいるか。

授業の中でも疑問が生まれたら、互いに意見を伝え合う様子がよく見られると感じています。このように、自分の考えを友達に伝えることに喜びを見出している子がいる反面、思いはあっても考えを表出することが苦手と感じている子どもも見受けられます。そんな子どもも安心して自分の考えを伝えたいと思えるよう、話をうなずきながら聴く、返事をする、「ありがとう」「ごめんなさい」をはっきりと伝える、相手に合わせて動くなど、友達の考えを受け止めていること、受け入れていることを、より行動で示せるように働きかけていきたいと思えます。

3 問題解決から学んだことをしっかりと振り返り、次の授業やくらしに生かしているか。

研究の取り組みの視点となる内容で、教師自身も難しさを感じております。学んだことがすぐに生かされることもあります。1ヶ月、1年先、もっと先に生きていくこともたくさんあると思えます。子どもも教師も見通しをもてることは、先が見えにくいこれからの社会を生きていく中で必要な資質だととらえていますので、今後とも、学んだことを日常生活に生かせるような授業づくりを心がけていきたいと思えます。まずは十分な振り返りの時間を確保し、学びが生かされていることを自覚する場を増やしていきたいと思えます。そして、思いが行動に伴っていけるよう、問題解決の先の価値の部分まで結びつけてあげることを意識した働きかけをしていきたいと思えます。

4 自分にはよいところがあると信じて努力しているか。

自分の得意なことを理解し、その得意分野についての知識を周りの人に伝えるために、より詳しくなろうと調べている姿をよく見かけます。自分のよいところが友達にも認められると、さらなる自信につながります。しかし、学年があがるごとに、自分のよさを言いにくくなり、自分の弱さやいやなところに目が向きがちになります。それも一つの成長ととらえ、よりよい自分に向かっていこうとしている問題解決の歩みに寄り添い、子どもが「自分を信じる」ことができるように毎日のくらしの中で、特に授業を通して支えていきたいと思えます。

5 目標を持って難しいことでも挑戦しているか。

学年行事をはじめ、困難なことにも前向きに取り組むことで、達成感を味わえることを体験的に学んできました。それが、粘り強く取り組む態度につながっていると思えます。しかし、自信をもてず、自分から挑戦することにためらいを感じてしまう子どももいます。今後とも、日々の授業、くらしの中で、「できた」という経験や周りから認められる場を大切に、互いに助け合い、支え合い、励まし合う「なかま」とともに、「北国の子」らしい強さとしなやかさを培っていきたいと思えます。

6 我が国日本や郷土山形の自然や伝統と文化、施設やそこで働く人について学んだことを、他の人に紹介したいと思っているか。

1・2年生は生活科を軸に、3年生以上はタイムを軸に、他教科と関連させながら山形のよさを目に向けて学習を積み重ねてきました。校外の施設や専門の方々にご協力いただくなど、新しい体験や人との出会いの機会を得ることで、生まれ育った山形を大切に思う気持ちが醸成されたのではないかと考えます。また、山形の魅力を発信したいという思いから、フェスティバル活動では、紹介の方法、内容をしっかりと考え、根拠をもって山形のよさを表現する姿を多く見かけました。今後とも、各教科での学習をつないだり、発信することまでを見据えたりしたカリキュラムを整えていきたいと思いをします。

7 友だちと互いに信頼し合い、学び合って友情を深め、助け合いながら、よりよい学級・学年・学校をつくらうとしているか。

学級目標を考え、それに向かって取り組んだり、定期的に振り返りをしたり、折に触れて目標と関連付けて話をしたりしてきたことで、よりよい学級を目指そうという思いが高まっていると考えます。また、6年生は、みのり班活動で1年生が成長していく姿を喜んで報告にくる姿から、大テーマに向かって一人一人が考えて行動することができていると感じています。今後とも、友達へのやさしい言葉かけや自分の正しい行動が、よりよい学級・学年・学校をつくることにつながるのだということを実感できるように励ましながら、我々教師も子どもたちと共に育ち合っていきたいと思いをします。

『四つの誓い』について

- 1 さわやかで元気なあいさつをしているか。
- 2 話を目と耳と心で聴いているか。
- 3 小さな社会人として地域のお手本になっているか。
- 4 一日一善（係・当番・仕事活動）に一生懸命取り組んでいるか。

昨年度は3～6年のみの実施ですので、完全な比較にはなりません。4つの項目とも、「そう思う」と答える割合が高くなっています。大テーマ「心を合わせてみんなニコニコ附属小」を目指し、前期は「あいさつ大作戦」のみの取り組みでしたが、各クラスで前期の生活を振り返り、代表集会で話し合った結果、後期は「ろう下を歩こう」「ごみを拾おう」「あいさつを交わそう」の全てをがんばるために、室長会で「にこにこたしざん大作戦」を企画し、全校で取り組んできました。このように、課題を解決したり、解決しようという意識をもって行動したりする姿が見られました。一方で、普段のくらしを見つめてみると、「ろうか歩行」「あいさつ」「バスのマナー」など、なかなかよくならない現状があると感じています。他の人が指導されているのを見ている・知っているのに、それがなかなか「自分のこと」にならないところが一つの課題でもありと考えております。その場、その場で、指導すべき子だけでなく、その周りの子どもたちと一緒に考えさせる働きかけが必要だと感じています。